WINDOWS端末・MicroAVS 使用法

2008年11月

中島研吾

Windows端末の使用法

- 電源投入時
 - [1, 2, 3]の[3]を選択する
- PuTTYによりun001.ecc.u-tokyo.ac.jp (ECCS2008) に接続
 - 実行
 - ファイルコピー
- MicroAVS立ち上げ
- Windows
 - ECCS2008とファイルシステムを共有
 - 文書ファイルは直接読むことができる

PuTTY起動(1/4)

PuTTY起動(2/4)

PuTTY起動(3/4)

PuTTY起動(4/4)

MicroAVS

- Windows専用
- 下記から評価版(1ヶ月有効, 継続不可)をインストール可能
 - https://www.kgt.co.jp/viz/dl/mavs_trial/mavs_trial.html

MicroAVS起動(1/4)

MicroAVS起動(2/4)

MicroAVS起動(3/4)

「ドキュメント」がECCS2008における
「Documents」に相当する

MicroAVS起動(4/4)

UCDフォーマットについて(1/4)

MicroAVSで扱うことのできる要素形状

要素の種類

キーワード

点

pt

線

line

三角形

tri

四角形

quad

四面体

tet

角錐

pyr

三角柱

prism

六面体

hex

二次要素

線2

line2

三角形2

tri2

四角形2

quad2

四面体2

tet2

角錐2

pyr2

三角柱2

prism2

六面体2

hex2

UCDフォーマットについて(2/4)

書式の概要

- ファイルの拡張子
 - データファイルの拡張子は “.inp”。
- 書式
 - アスキーファイル
 - 時系列(複数ステップ)に対応したものが標準フォーマット
 - MicroAVS Ver.6.0(現在はVer.10.0)まで使用していた旧フォーマット(単一ステップデータのための書式)も読み込むことは可能
 - 実は一部これを使用している

UCDフォーマットについて(4/3)

書式の概要

(コメント行)
 (ステップ数)
 (データの繰り返しタイプ)
 (ステップ番号1) (コメント)
 (全節点数) (全要素数)
 (節点番号1) (X座標) (Y座標) (Z座標)
 (節点番号2) (X座標) (Y座標) (Z座標)

・
 ・
 ・

(要素番号1) (材料番号) (要素の種類) (要素を構成する節点のつながり)
 (要素番号2) (材料番号) (要素の種類) (要素を構成する節点のつながり)

・
 ・
 ・

(各節点のデータ数) (各要素のデータ数)
 (節点のデータ成分数) (成分1の構成数) (成分2の構成数) ……(各成分の構成数)
 (節点データ成分1のラベル), (単位)
 (節点データ成分2のラベル), (単位)

・
 ・
 ・

(各節点データ成分のラベル), (単位)
 (節点番号1) (節点データ1) (節点データ2) ……
 (節点番号2) (節点データ1) (節点データ2) ……

・
 ・
 ・

(要素のデータ成分数) (成分1の構成数) (成分2の構成数) ……(各成分の構成数)
 (要素データ成分1のラベル), (単位)
 (要素データ成分2のラベル), (単位)

・
 ・
 ・

(各要素データ成分のラベル), (単位)
 (要素番号1) (要素データ1) (要素データ2) ……
 (要素番号2) (要素データ1) (要素データ2) ……

・
 ・
 ・

(ステップ番号2) (コメント) (全節点数) (全要素数)

・
 ・
 ・

UCDフォーマットについて(4/4)

旧フォーマット

(全節点数) (全要素数) (各節点のデータ数) (各要素のデータ数) (モデルのデータ数)

(節点番号1) (X座標) (Y座標) (Z座標)

(節点番号2) (X座標) (Y座標) (Z座標)

⋮

(要素番号1) (材料番号) (要素の種類) (要素を構成する節点のつながり)

(要素番号2) (材料番号) (要素の種類) (要素を構成する節点のつながり)

⋮

(節点のデータ成分数) (成分1の構成数) (成分2の構成数) ⋯(各成分の構成数)

(節点データ成分1のラベル), (単位)

(節点データ成分2のラベル), (単位)

⋮

(各節点データ成分のラベル), (単位)

(節点番号1) (節点データ1) (節点データ2) ⋯

(節点番号2) (節点データ1) (節点データ2) ⋯

⋮

(要素のデータ成分数) (成分1の構成数) (成分2の構成数) ⋯(各成分の構成数)

(要素データ成分1のラベル), (単位)

(要素データ成分2のラベル), (単位)

⋮

(各要素データ成分のラベル), (単位)

(要素番号1) (要素データ1) (要素データ2) ⋯

(要素番号2) (要素データ1) (要素データ2) ⋯

⋮

UCDデータの例

#
1
data
step1
36 12

1	0.0	0.0	0.0
2	1.0	0.0	0.0
3	2.0	0.0	0.0
4	0.0	1.0	0.0
5	1.0	1.0	0.0
6	2.0	1.0	0.0
...			
31	0.0	1.0	3.0
32	1.0	1.0	3.0
33	2.0	1.0	3.0
34	0.0	2.0	3.0
35	1.0	2.0	3.0
36	2.0	2.0	3.0

1 1 hex 1 2 5 4 10 11 14 13
 2 1 hex 2 3 6 5 11 12 15 14
 3 1 hex 4 5 8 7 13 14 17 16

...

10 1 hex 20 21 24 23 29 30 33 32
 11 1 hex 22 23 26 25 31 32 35 34
 12 1 hex 23 24 27 26 32 33 36 35

0 1
1 1
 Mesh,
 1 1.00
 2 1.00
 3 1.00
 4 1.00

...

10 1.00
 11 1.00
 12 1.00

新フォーマット

36 12 0 1 0

1	0.0	0.0	0.0
2	1.0	0.0	0.0
3	2.0	0.0	0.0
4	0.0	1.0	0.0
5	1.0	1.0	0.0
6	2.0	1.0	0.0
...			
31	0.0	1.0	3.0
32	1.0	1.0	3.0
33	2.0	1.0	3.0
34	0.0	2.0	3.0
35	1.0	2.0	3.0
36	2.0	2.0	3.0

1 1 hex 1 2 5 4 10 11 14 13
 2 1 hex 2 3 6 5 11 12 15 14
 3 1 hex 4 5 8 7 13 14 17 16

...

10 1 hex 20 21 24 23 29 30 33 32
 11 1 hex 22 23 26 25 31 32 35 34
 12 1 hex 23 24 27 26 32 33 36 35

1 1
 Mesh,
 1 1.00
 2 1.00
 3 1.00
 4 1.00

...

10 1.00
 11 1.00
 12 1.00

旧フォーマット

ファイルを読み込む

ファイル(F) ⇒ データの読み込み (R)

このように「表示窓」一杯に広がってしまったら、「物体の表示窓」から「物体(O)⇒位置の指定(T)」を選択する。

このような「位置の指定」ウィンドウが表示される

「最適な大きさ」、「ズーム(縮小)」などのボタンを使用

「最適な大きさ」、「ズーム(縮小)」などのボタンを使用

様々な機能: クリックして選択

表面コンター

変形図

メッシュ表示

「物体の表示窓」から「物体(O)⇒表示方法の指定(M)」を選択する。

出てきたウインドウの「線と滑らか表示」をクリックする。

リジェンド表示

メインウィンドウのこのボタンを押すとリジェンドが表示され設定用のウィンドウも現れる。

ファイル保存

「ファイル(F)⇒データの書き込み(W)」で様々なフォーマットでの保存可能

動画も可能